

事務事業名	消防団施設維持管理事業		所属部局	消防本部		単位番号	13070				
			所属課室	消防課		課長名	芦沢俊一				
			所属担当	地域消防		担当者名	森本浩人				
基本政策	基本計画体系	I	情報と連携の都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目
		06	安全な環境づくり		01	一般	09	01	03	03	00
政策		08	防災体制の充実	事業区分	☐ 国の制度による義務的事業 ☒ 施設等維持管理事業 ☐ 県の制度による義務的事業 ☐ 補助金交付事業 ☐ 市の制度による義務的事業 ☐ その他の事業 ☐ 義務化されている協議会等の負担金						
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 15 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)				法令根拠						
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 南アルプス市内の消防団詰所のガス代、下水道使用料、甲西分団第3部(大師627)、白根分団第10部(国有地)の土地借上料の補助をしている。			事業費の主な内訳 (22年度)							
				項目(細節)	金額(千円)	項目(細節)	金額(千円)				
				需用費(光熱)	2,758						
				役務費	33						
				不動産借上げ	105						
			計					2,896			

1 現状把握 (DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動	各部の詰所の電気代、水道代や下水道使用料などの補助を行っている。
22年度活動実績	上記に同じ
23年度活動予定	
② 対象 (この事務事業は誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	消防団詰所
③ 意図 (この事務事業により対象をどのような状態にしていのか、どのように変えるのか)	消防団活動に専念出来る
④ 上位目的 (どのような結果に結び付けるのか)	地域住民に安心感を与える

⑤ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
ア	電気代	円
イ	水道量代	円
ウ	下水道使用料	円
⑥ 対象指標 (対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
ア	消防団詰所の数	箇所
イ		
ウ		
⑦ 成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
ア	消防団活動に専念出来たと感じた団員の割合	%
イ		
ウ		
⑧ 上位成果指標 (結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
ア	消防団が活動していて安心だと思った住民の割合	%
イ		

(2) 事業費・指標の推移

(2) 事業費・指標の推移				単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終 年度 (トータルコスト・目標)
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
			県支出金	千円							
			地方債	千円							
			その他	千円							
			一般財源	千円	3,082	2,896	3,906	3,250	3,250	3,250	
		事業費計 (A)	千円	3,082	2,896	3,906	3,250	3,250	3,250	0	
	人件費		正規職員従事人数	人	3	3	3	3	3	3	
			延べ業務時間	時間	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	
			人件費計 (B)	千円	5,353	5,353	4,754	4,754	4,754	4,754	0
			(A)+(B)	千円	8,435	8,249	8,660	8,004	8,004	8,004	0
活動指標		ア	円	2,127.0	2,200.0	2,200.0	2,200.0	2,200.0	2,200.0		
	イ	円	492.0	495.0	495.0	495.0	495.0	495.0			
	ウ	円	48.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0			
対象指標	ア	箇所	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0			
	イ										
成果指標	ア	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0			
	イ										
上位成果指標	ア	%	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0			
	イ										

(3) この事務事業を取り巻く状況 (対象者・社会状況等) の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか?	自治体消防制度が23年に発足し、市町村の事務として行われている。平成15年の町村合併により南アルプス市となりそれに伴い6つ町村の消防団が統合され、南アルプス市消防団となった。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか? また、今後の予測は?	時代の変化とともに消防団員も訓練終了後には、そのまま解散になる部が増えつつあり、電気代や水道代も減少傾向にある。
③ 事務事業に対して関係者 (市民、事業対象者、議会等) からどんな意見・要望が寄せられているか?	詰所によっては、消防ポンプ車の車庫のみの所があり、水道が設置されていない場合があり、地区の施設の水道を利用し水道料の折半を希望している部がある。

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は?	☒ 取り組みしている ⇒ [内容↓] ☐ 取り組みしていない ⇒ [理由↓]
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過 (取り組みしていない場合はその理由)	部によって月に1~2回程度しか集まらない所もあり、電気つけっぱなしやトイレの水など注意するように依頼している。
③ H 22年度に実施した改革改善の内容	上記の依頼により電気及び水道代も抑える事が出来た。

事務事業名	消防団施設維持管理事業	所属部	消防本部	所属課	消防課
-------	-------------	-----	------	-----	-----

2 評価 (Check1) 担当者による事後評価 (複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない (見直し余地がある) ⇒ [理由↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒ [理由↓] 消防団は災害から地域住民の生命や財産を守ることであり、安全な環境づくりの意図に結びついている
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒ [理由↓] 市民生活の安全確保のために行なうものである
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒ [理由↓] 地域防災の活動拠点の詰所の維持管理
有効性 評価	④ 成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある ⇒ [理由↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒ [理由↓] 地域消防の拠点として有効に機能するように維持管理をする
	⑤ 類似事業との統合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒ (類似する事務事業の名称を記入↓) ☐ 統合・連携ができる ⇒ [理由と具体案↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒ [理由↓] ☒ 類似事務事業がない
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒ [理由と影響の内容↓] 施設の老朽化が進み防災拠点としての機能が果たせなくなる ☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒ [理由↓] 施設の老朽化が進み防災拠点としての機能が果たせなくなる
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費 (コスト) を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒ [理由・具体案↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由↓] 必要経費
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？ (事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒ [理由・具体案↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由↓]
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由・具体案↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒ [理由↓] 消防団活動、地域防災のために使用する施設である

3 評価 (Check2) 担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括 (事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	消防団活動を行なうにあたり、消防団詰所は各部の集合拠点に位置付けられているため、維持管理は重要不可欠である。団員また地域の安全安心のシンボルとして今後も団員にて大切に使用していく。

4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性 (Check1の結果から定める)・・・複数選択可		(3) 改革・改善による方向性																						
☐ 廃止 (目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携 (有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善 (公平性⑨の結果) ☐ 休止 (目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上 (有効性④の結果) ☒ 現状維持 (全評価項目で適切) ☐ 必要性検討 (目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減 (効率性⑦、⑧の結果)		<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☐</td><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><th>維持</th><td>☐</td><td>☒</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr></table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要				コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐		
		コスト水準																						
		削減	維持	増加																				
成果水準	向上	☐	☐	☐																				
	維持	☐	☒																					
	低下	☐																						
(2) 改革改善案について		(5) 事務事業優先度評価結果																						
① 団員また地域の安全安心のシンボルとして今後も団員にて大切に使用していく。現状維持にて改革改善する必要はない。		成果優先度評価結果																						
②		⑩																						
③																								
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策		コスト削減優先度評価結果																						
① 改革改善する必要はない。		⑥																						
②																								
③																								